

ぎふまち未来ビジョン2026

～『やっぱぎふやて!』と言える未来へ～



2026年6月

目 次

1.はじめに	1
2.ぎふまちの現状と課題、魅力とポテンシャル	2
3.ぎふまち未来ビジョン(目指す将来像)	10
4.将来像を実現するための取り組み	13
5.おわりに	24
(別紙)4つの歴史を追体験する 「歴史回廊」	25

1 | はじめに

岐阜商工会議所の使命は、地区内の商工業者の総合的な改善発達を図り、地域経済の発展とともに社会一般の福祉の増進に貢献することにある。また、商工会議所としての意見を公表し、公的な立場から社会や行政に働きかける役割を担っている。

現在、岐阜市には、社会環境の変化等の外的要因と岐阜市自身が抱える内的要因から生じる様々な課題がある。一方、人口の社会増が続くとともに、広域交通インフラの整備が進んでおり、伝統文化や自然等の魅力ある観光資源にも恵まれ、そのポテンシャルは非常に高いと考えられる。

岐阜のまちづくりについて様々なプランが示される中、将来を見据えたまちづくりに民間事業者も積極的に参画し、行政と連携して推進していく必要がある。

当所では、岐阜のまちの将来を担う若手職員を中心に、当所議員をはじめ幅広く意見を求め、議論を行い「ぎふまち未来ビジョン」を策定した。

「ぎふまち未来ビジョン」を今後の活動に反映していくとともに、魅力溢れる岐阜のまちづくりに貢献していきたい。

2 | ぎふまちの現状と課題、魅力とポテンシャル

(1) 産業・ビジネス基盤(稼ぐ力の代謝と伝統の継承)

【現状と課題】

- ・岐阜市は名古屋へのアクセスが非常に便利であるため、人材や企業が流出する「ストロー現象」が起きるとともに、地場産業の縮小も重なって、全体の事業所数が右肩下がり傾向にある(図1)。全国平均に比べ開業率も低迷しており(図2)、地域経済の代謝の停滞が大きな課題となっている。
- ・近年、行政の支援が充実し、小規模な起業の増加はみられるものの、地域経済を牽引する力のあるスタートアップの創出には至っていない。

図1 管内商工業者数・小規模事業者数の減少

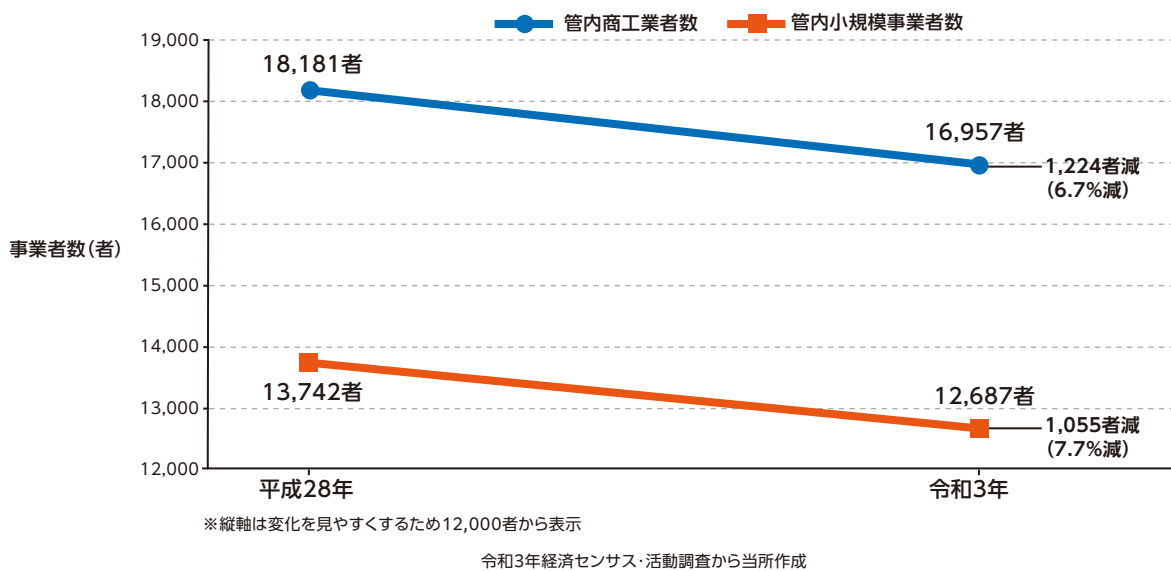
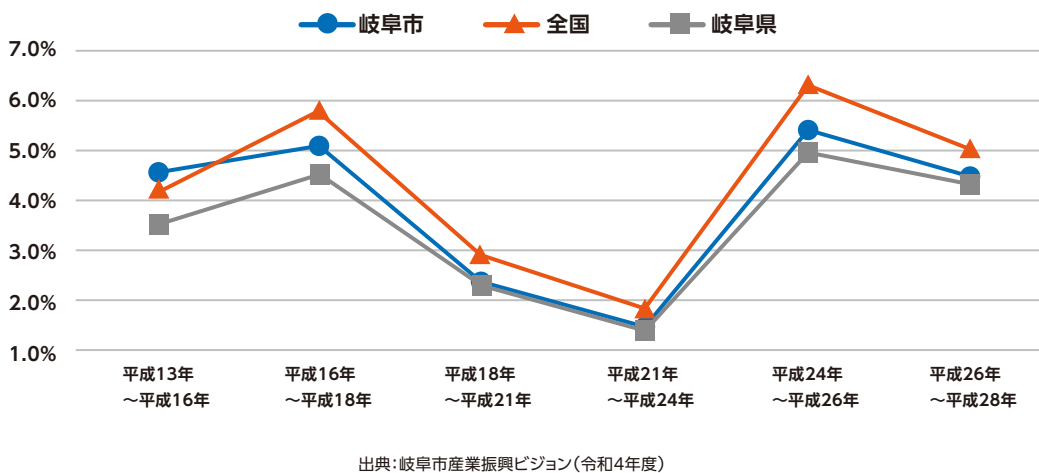


図2 創業比率の推移



【魅力とポテンシャル】

- 岐阜市は、名古屋中心部に比べてオフィスや店舗のテナント賃料が安価で、住宅地価、家賃に加え、物価も一般に廉価であり、企業にとっても暮らす人にとっても「コスパ(コストパフォーマンス)」の高いまちであると言える。
- 今後、リニア中央新幹線が開通した暁には、東京・名古屋・関西の経済圏から本社機能やサテライトオフィスを誘致できる「ストック効果(インフラ整備が中長期にもたらす便益)」の恩恵も期待される。
- 岐阜の商人文化は、織田信長公の「楽市楽座」に象徴される斬新な商業政策(規制緩和)と、長良川の水運が融合して発展した歴史を持つ(図3)。川原町は川湊として上流から運ばれた美濃和紙や生糸、木材等の集散地となり、ここで伝統工芸品の「岐阜うちわ」も生まれた。また、上方の文化を反映した日用品や装飾品をはじめ、広域から多くの物資が運び込まれ、一大物流拠点として栄えた。こうした歴史を踏まえ、若者を中心に「稼ぐ力」を生み出すエリアとして再評価され、まちなかで気軽にビジネスを試せる「商い」の場として活用されることが期待されている。

図3 川原町について

II. 経済・文化が賑わった中世・近世の町並や建物

中世・近世には、土岐氏・斎藤氏・織田氏などがこの地を治め、織田氏の時代には、「楽市楽座」により経済・文化も賑わった。他の地域から多くの商人や工匠等が移住し、材木町、大工町、鍛冶屋町、魚町、米屋町などがつくられ長良川の水運を利用し発展し、今も町家や蔵などが残る。また、城下町には、多くの寺社仏閣が設置され、それにともない庶民文化も発達した場所である。



▲平入りで長押が特徴の町家が並ぶ



▲堤外からみえる蔵

8 川原町の町並 かわらまち まちなみ 岐阜市湊町、玉井町、元浜町

岐阜城下にある古い町家や蔵が並ぶ町並

斎藤道三により整備され、江戸中期に現在の規模に形成された。長良川から船で美濃和紙や材木を水揚げし、川岸に平入りの形で商家が立ち並んでいた。建物形状は、狭い間口に奥行きが長い町家特有のものが多く、現在もその名残を見ることができる。建物には、一階に太格子を使用し、二階部分の格子戸は上下框まで通っているものが多い。現在は、鵜飼観覧船のりばからも近く、伝統工芸品「岐阜うちわ」の店舗や和菓子店などとして利用され、古い町並みを形成している。



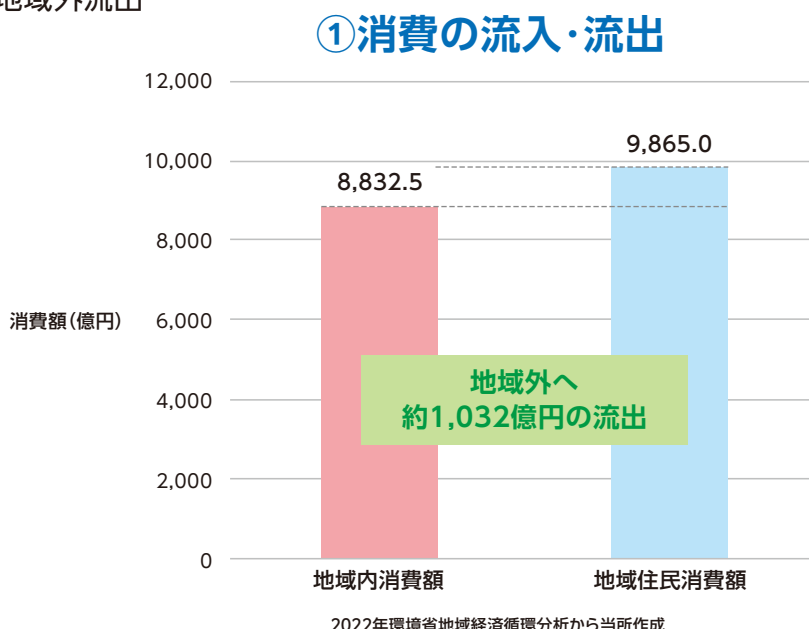
- ・黒野地区では、岐阜大学に隣接する岐阜薬科大学のキャンパス移転統合計画(2028年12月完成予定)が進められており、地元企業による研究施設の整備計画も発表された。今後、医療・ヘルスケア関連企業の誘致が進み、新たなライフサイエンス拠点が形成されることが期待されている。

(2) 都市のにぎわい・観光・歴史資源(行く目的の創出)

【現状と課題】

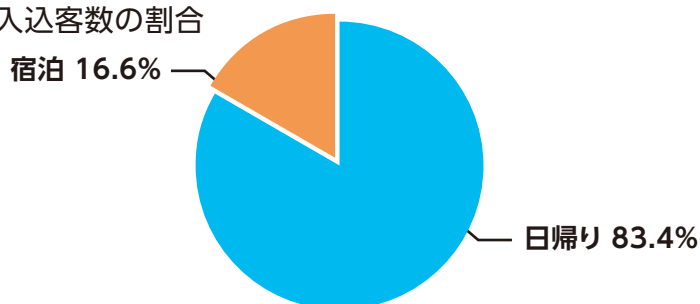
- ・2023年3月に「住・商・公」が一体となった柳ヶ瀬グラスル35が誕生し、子育て世代からシニア層、周辺のビジネスパーソンが集まる一方、2024年7月には岐阜高島屋が閉店して、まちなかのにぎわいの核を失い、百貨店がもたらす様々な物産・文化・芸術に触れる機会を喪失した。EC(電子商取引)の普及も重なり、まちなかに「行く目的」が減少したことで、まちなかと若者との接点が希薄になっている。
- ・名古屋の都心再開発に伴い若者の消費は名古屋に流出する傾向にあり(図4)、消費意欲も「モノ」から「コト(推し活など)」へと変化している。こうした変化を捉え、岐阜のまちなかでの消費を促す仕組みが必要である。

図4 消費の地域外流出



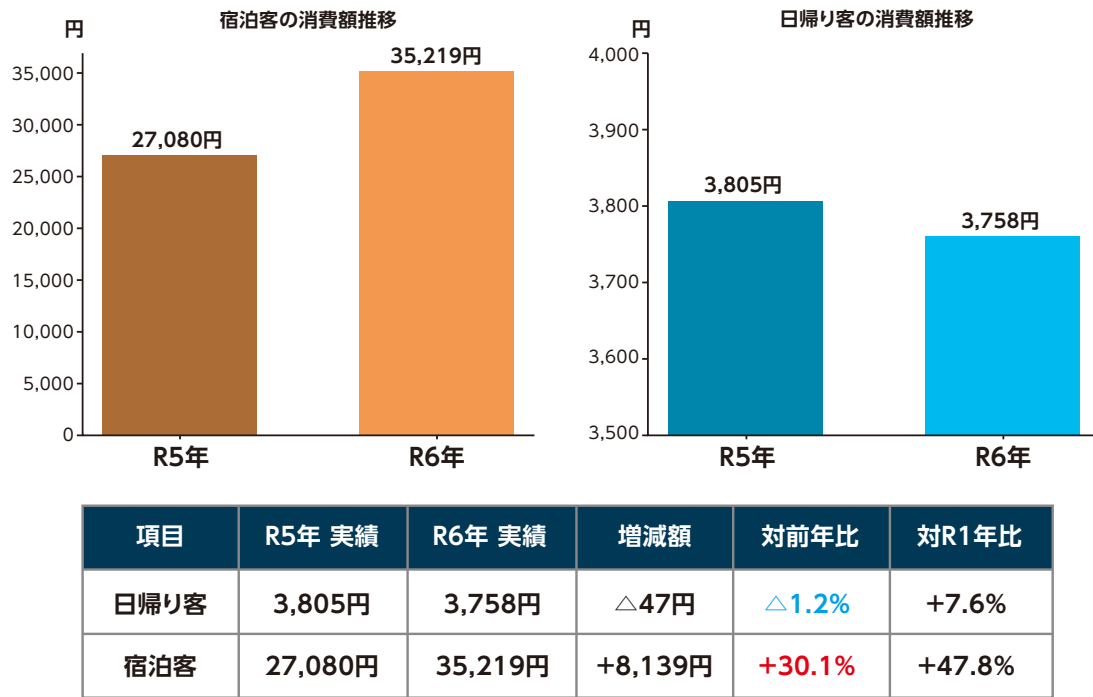
- ・豊富な観光資源(岐阜城、長良川鶺鴒、川原町など)があり、市民の愛着度も高いものの、PRの不足やエリアの分断による回遊性の不足等で十分に活かされていない。また、観光客の宿泊率は20%以下と圧倒的に日帰り観光が多く(図5)、夜の過ごし方の提案や「+1日観光」、体験コンテンツの不足が課題である。宿泊は日帰りに比べ1人あたり平均消費額に約10倍の差(図6)、消費総額においては年々拡大し約2倍の差があるため(図7)、滞在時間の延長に繋がる宿泊促進の取り組みが不可欠である。

図5 日帰り・宿泊別観光入込客数の割合



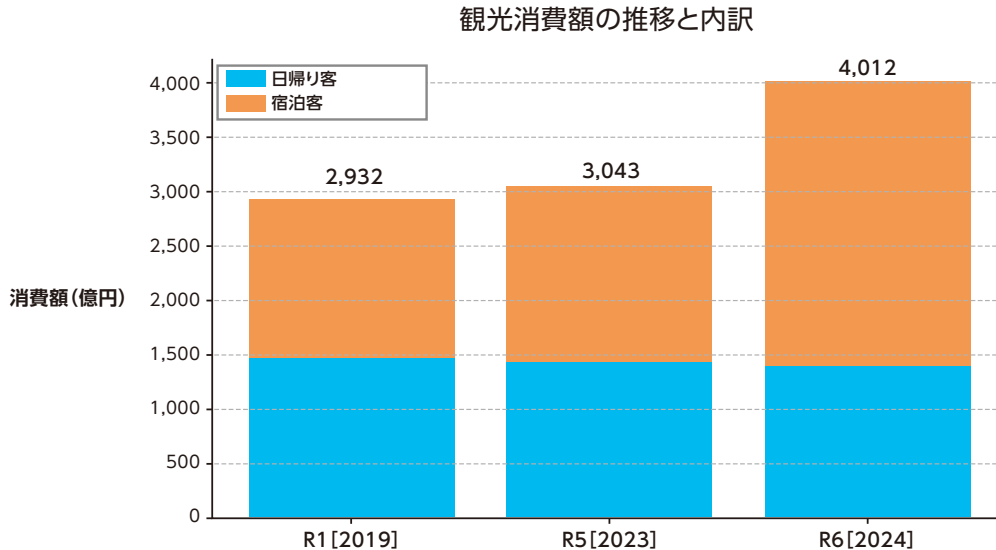
出典:令和6年岐阜県観光入込客統計調査(岐阜県)

図6 宿泊客及び日帰り客の1人あたり平均消費額推移



令和6年岐阜県観光入込客統計調査(岐阜県)データから当所作成

図7 宿泊客及び日帰り客の観光消費総額の推移と内訳



区分	R1 [2019]年	R5 [2023]年	R6 [2024]年	前年比(R6/R5)
日帰り客(億円)	1,461.33	1,434.87	1,400.90	-2.4%
宿泊客(億円)	1,471.50	1,608.67	2,611.83	+62.4%
合計(億円)	2,932.83	3,043.55	4,012.73	+31.8%

令和6年岐阜県観光入込客統計調査(岐阜県)データから当所作成

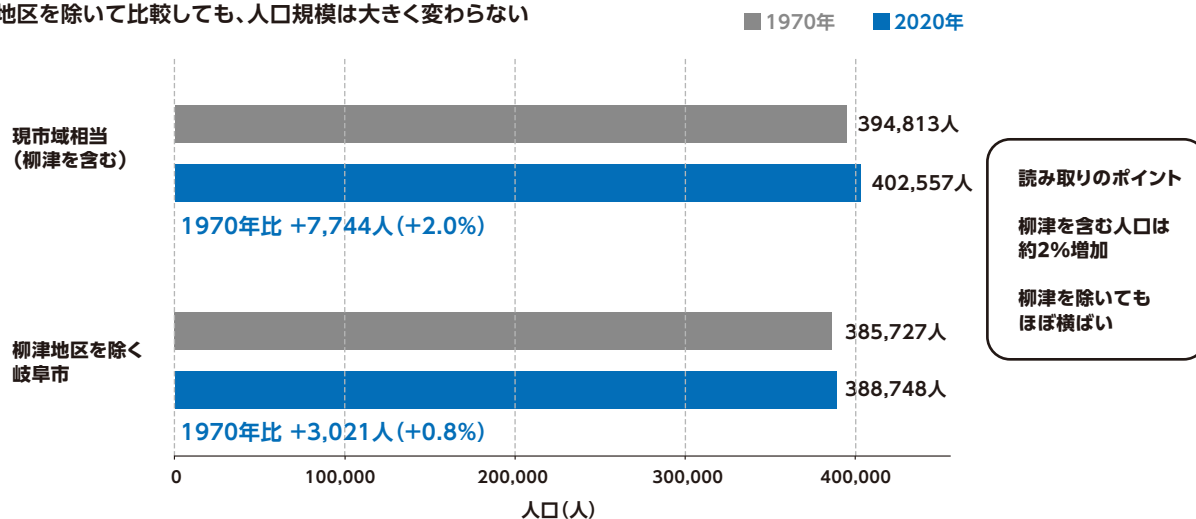
【魅力とポテンシャル】

•現在の岐阜市の人口は、柳ヶ瀬が賑わっていた1970年頃と殆ど同じ水準にあり(図8)、まちなかの後背地のポテンシャルが大きく低下しているわけではない。まちなかのランドスケープとして誕生した「柳ヶ瀬グラスル35」の存在に加え、定期イベントやレトロ資産(廃墟ツアーなど)により、昭和の香りが漂うディープな街として若者世代の支持を集め始めている。

図8 柳ヶ瀬のポテンシャル

岐阜市の人口規模は、1970年頃とほぼ同水準

柳津地区を除いて比較しても、人口規模は大きく変わらない



※昭和45年は当時の岐阜市人口と旧柳津町人口を用いた現市域相当の比較。令和2年は岐阜市人口から柳津地区人口を区分して表示。

岐阜県「昭和45年国勢調査」、岐阜市「令和2年国勢調査 岐阜市地区別人口」から当所作成

- 昭和期に全国屈指の賑わいを誇った柳ヶ瀬商店街の特長は「線」ではなく「面」にある。アーケードが東西・南北に広がる「面の商店街」として全国有数の規模(縦横約300m四方)を誇り、現在も岐阜市の中心にあって存在感を保っている。
- 金華エリア、川原町エリア、加納エリア、柳ヶ瀬エリアといった歴史的魅力が点在している。これら既存の資産を磨き上げ、歴史を肌で感じながら巡る「歴史回廊」を形成し、情報発信を強化することで、エリアとしての集客力向上が十分に期待できる。

(3) 都市機能・交通インフラ・生活環境(ウェルビーイングの実現)

【現状と課題】

・公共交通機関(バス)のハブがJR岐阜駅・名鉄岐阜駅に集中していることから、通勤・通学時間帯における渋滞が慢性化しているほか(図9)、バス路線が長大化し、運転手不足の一因となっている。

図9 渋滞の常態化



国道21号は県内各所から車が集中し、岐阜市内では1日平均約6万3千台が通行します。1万5千台以上が通行する南北主要道路との交差点も多く、車の通行量の多さが混雑の要因の一つとなっています。

県内で深刻な渋滞が発生する場所は168箇所。国道21号では、岐阜市内のほとんどの区間で朝7時台の走行速度が20km/h以下となり、5つの交差点が県内の事故多発箇所のワースト10に入ります。



出典:岐阜県道路交通渋滞対策推進協議会

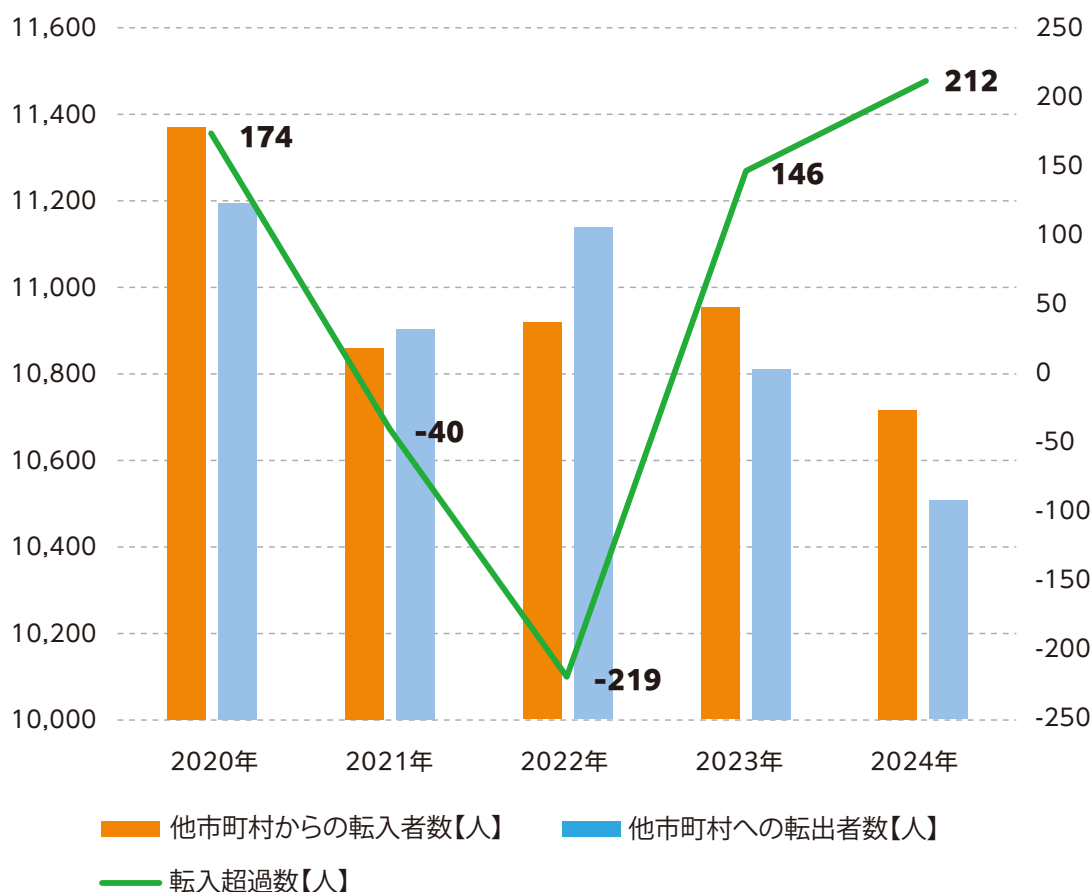
- ・JR・名鉄⇄柳ヶ瀬⇄川原町・岐阜公園という拠点の間には、歩くには遠い距離があるが、これらを繋ぐ利便性の高い交通手段がなく、まちなかの拠点が点で孤立している。
- ・国内外からの来岐者にとって、長良川河畔へのアクセス経路が認知しづらい。また、宿泊者向けの夜間交通機関が少ないことがナイトタイムエコノミーの制約条件となっている。宿泊施設への往来時に観光拠点に気軽に立ち寄れたり、夜間に気軽に外出できたりするための新たな交通手段の提供が必要である。

【魅力とポテンシャル】

•人口の社会動態(日本人のみ)は、2023年、2024年と対全国で2年連続転入超過の状態にあり(図10)、特に30代、40代の子育て世代の転入超過が多い。市中心部には職住に必要な都市機能(医療・福祉・行政・居住・金融・公共交通)が近接し、コンパクトシティとしての都市機能が集積している。魅力的な職場・住まいの提供は今後も人口増の定着に有効であると考えられる。

図10 人口の社会増減2020-2024年

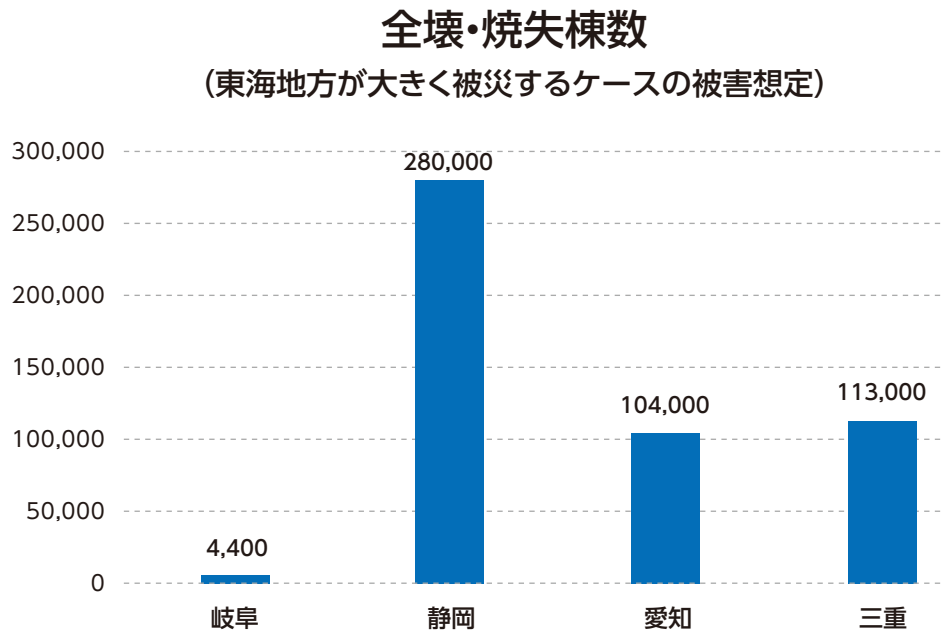
転出入数の推移



住民基本台帳データから当所作成

- 清流長良川や緑豊かな金華山といった雄大な自然が日常に溶け込む一方で、名古屋駅まで電車で約20分という抜群の交通利便性を誇る。「自然の安らぎ」と「都市の利便性」が絶妙なバランスで調和する住環境は、多様なライフスタイルを叶えるまちとしての強みである。
- 全国的に自然災害が激甚化・頻発化する中で、岐阜市は内陸部に位置し強固な地盤を有することから津波リスクが極めて低く、水害や地盤沈下のリスクに対する安心感がある(図11)。名古屋に近く災害リスクを分散できる地理的優位性は、中京圏域の中核機能を担う企業のBCP(事業継続計画)の「バックアップオフィス(代替拠点)」としても最適である。

図11 全壊・消失棟数の想定(南海トラフ巨大地震 最大クラス地震における被害想定について)



中央防災会議 防災対策実行会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ2025年3月作成データから当所作成

- 2025年4月に東海環状自動車道「岐阜IC」が開通し、岐阜大学や周辺の医療・研究機関、市北西部の産業・物流エリアから、一宮JCTや豊田方面、新東名等へのアクセスが劇的に改善された。養老・いなべ間の西回りルート全線開通やリニア中央新幹線の開通を見据え、東名阪の経済圏と一体となった発展の環境がさらに整いつつある。

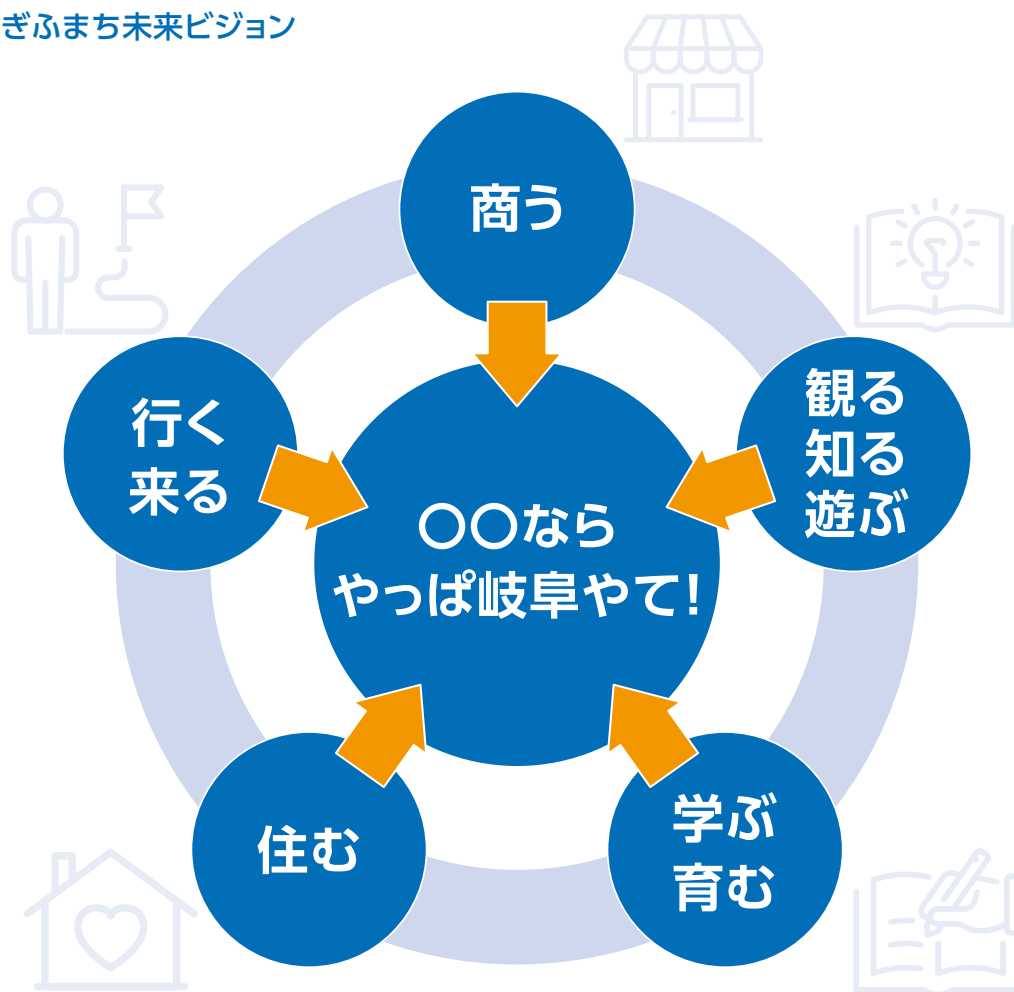
3 | ぎふまち未来ビジョン ～『やっぱぎふやて!』と言える未来へ～

○岐阜商工会議所は、2000年に「21世紀の岐阜市は、市民一人ひとりのふるさとへの愛着と誇りに支えられ、拓かれる」をコンセプトに「岐阜を愛する市民運動」を展開し、シンボルマークとキャッチフレーズを募集・決定した。その時のキャッチフレーズが「やっぱぎふやて!」である。



公募によるこのシンボルマークは「岐阜市の木であるツブラジイの葉が笑っている。そんな街づくりができれば」との思いが込められた作品。

○今回のビジョンでは、岐阜が、次世代を担う子供や若者が居たい・戻りたいと思うまち、30代、40代が住みたい・働きたいと思うまち、観光客が行きたい・また来たいと思うまち、企業が立地したい、起業したいと思うまちとなり、誰からも「やっぱぎふやて!」と言われ、岐阜が様々な人にとっての「目的地」になるよう、課題を克服し、魅力・ポテンシャルを活かすための方向性と打ち手を5つの観点から検討した。



商う	起業も就職も「岐阜なら挑戦できる」まちへ
観る・知る・遊ぶ	歴史・自然を物語として体感し、一日中感動が続くまちへ
学ぶ・育む	子ども、若者が集まり、全体が「キャンパス」になるまちへ
住む	多様なライフスタイル・豊かなワークライフバランスが描けるまちへ
行く・来る	暮らす人・訪れる人が自在に移動できる交通のあるまちへ

【目指す将来像】

「商う」なら「やっぱぎふやて!」

- 多様な人・多くの世代が交錯することで、気軽にビジネスに挑戦でき、斬新なアイデアが生まれ、それを目当てに人が集まり賑わい、新たな「稼ぐ力」を連続的に生み出すまちへ
- 全国展開する大企業やサテライトオフィス、地元の中小企業や個人事業主から学生ベンチャーまで、あらゆるビジネスの拠点がまちなかに集積するまちへ
- 災害に強い強固な地盤と広域交通インフラの整備という優位性を活かして企業を誘致し、新たな活力がもたらされるまちへ

「観る・知る・遊ぶ」なら「やっぱぎふやて!」

- 子ども・若者が感動・共感する空間の創出と、魅力の再発見・情報発信によりコト消費が拡大するまちへ
- 「歴史回廊」でタイムスリップするように歴史を肌で感じ、楽しみながら巡ることができるまちへ
- 24時間オールタイム楽しめ、朝・昼・夜それぞれに魅力的なコンテンツが繋がり、宿泊観光客でにぎわうまちへ

「学ぶ・育む」なら「やっぱぎふやて!」

- まちなかに設けられた「学び」の場に子どもや若者が集まり、賑わいと活力があふれるまちへ
- まちなか全体を「教科書」と捉え、教育機関の壁を越えて地域課題の解決を共に学ぶまちへ
- 子どもや若者が伝統産業などの「仕事」に触れ、郷土の次世代を担う産業人としての誇りを育むまちへ

「住む」なら「やっぱぎふやて!」

- 仕事・くらし・遊びがシームレスに繋がり、多様なライフスタイル・豊かなワークライフバランスが描けるまちへ
- 岐阜の魅力・強みを磨き上げ、まちなかへの移住、他地域からの移住をしなくなるまちへ
- 災害に強い「岐阜」を広く発信し、地域ぐるみで防災に取り組む続けるまちへ

「行く・来る」なら「やっぱぎふやて!」

- 暮らす人・訪れる人が、ストレスフリーで自在に移動できる、利便性と持続性の高い交通ネットワークがあるまちへ
- 移動そのものを楽しみながら、安全かつウォークアブルに回遊できる次世代モビリティが充実したまちへ

4 | 将来像を実現するための取り組み

(1) 「商う」なら「やっぱぎふやて!」

① スタートアップの支援

○創業環境の整備・支援の強化

- 起業志望者や潜在層にとってネックとなっている初期投資の負担軽減やテストマーケティングの場の創出のため、「柳ヶ瀬チャレンジショップ(区画棚でのテスト販売、ポップアップ出店等)」や「小規模チャレンジ補助金(テストマーケティング費用等の一部補助)」を創設する。



小規模チャレンジ補助金

「販路開拓」を目指す小規模事業者を支援します!



新しい販路に
チャレンジしたい!



事業拡大や
売上アップを目指したい!



新たな取り組みを
応援します!



補助上限額 ○○万円～△△万円
※詳細は公募要領をご確認ください。

公募期間(予定)
20XX年X月X日(○)
～20XX年X月X日(○)

小さな一歩が、未来をつくる。

- 中心市街地の空き店舗を活用し、イベント開催やテストマーケティングのための場所を提供する。また、固定費負担を分かち合う二毛作賃貸(昼⇄夜、週末⇄平日など)のような多様な貸し出しスタイルを提供し、スタートアップの起業を支援する。



- 岐阜のまちなかに移転しようとする事業者と地域事業者を結びつけるコミュニティ・マネージャー制度を導入し、移転事業者の地域への定着、地元企業との連携を促進するとともに、オンラインによる移転者向け創業支援サービス(WEB予約制の創業窓口)を提供する。
- 企業がまちなかへの移転を考える際の懸念事項の1つである駐車場問題への対策として、空地等の未利用地を周辺オフィスとのシェア駐車場として活用する。

○川原町エリアでの古民家を活用した創業拠点の整備

- 同エリアの景観や建造物、歴史的遺産を観光客向けビジネスの挑戦の場として活用する。同エリアの歴史や先人の商いの思想・文化を学び、岐阜商人の起業精神を継承、商人が育つ聖地を目指し「岐阜商人塾」を開講する。



② 駅前エリアの活性化

○駅前への企業誘致

- 名古屋圏との近接性や災害に強い土地、まちなか再開発の動き、生活環境等の優位性、リニア中央新幹線開通による広域からのアクセスの劇的向上を訴求する。加えて、エリア全体に最先端の高速通信回線を完備し、進出を検討する企業・進出した企業のワンストップ窓口となる専任コンシェルジュの新設などにより、ツインタワーを中心に企業の本社機能やサテライトオフィス、BCPバックアップ拠点などを官民が連携して誘致する。

○駅前エリアの商業機能強化

- 問屋町での創業講座の開催などにより商業地としての認知向上を図るとともに、駅前エリアの開業支援強化を通じ、問屋町一帯での開業者の挑戦を促進する。
- 既存の平行事業者と新規開業者などによる「衣・食」関連のサービス業を中心とした商店街を駅前に創出する。

- 商店街のフロントラインに集客力のある店舗の誘致を図るとともに、「駅前ナイトマルシェ(夜市)」の開催や地元の食を発信する常設のストリークの形成等により、通勤・通学客などの日常的な人流を取り込んで駅前に賑わいを取り戻す。



③ ライフサイエンス拠点の形成

○黒野地区をライフサイエンスの拠点として整備する

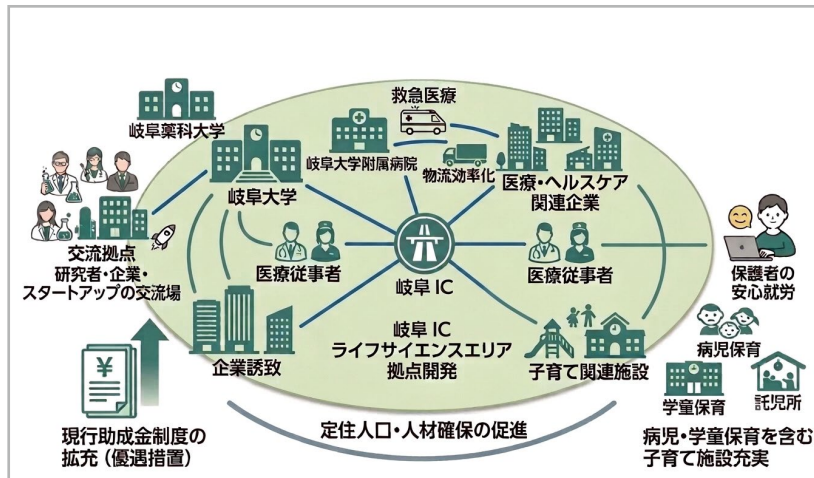
- 岐阜大学と岐阜薬科大学の連携強化に伴い、創薬研究の進展が期待されている。研究関係者、製薬会社、スタートアップ企業等が集い、共同研究を「即時」開始できるプラットフォームを構築すること等により、交流を活発化させ、新たな技術やアイデアが生まれやすい環境を醸成する。
- 企業の初期投資に伴う負担軽減を図るために、現行の助成金制度を拡充するとともに、特区制度を活用した「規制のサンドボックス(※)」による、新技術の先行導入を推進する。

(※)企業が新しい技術やビジネスモデルの実証実験を行う際、参加者や期間を限定して既存の規制を一時的に適用除外または緩和する制度



○同エリアの定住人口増加に向けて居住環境を整備する

・東海環状道の沿線エリアに勤務する医療従事者や研究者、企業の社員の定住を促進するため、保育・教育環境等の生活環境の充実を図る。これにより、地元の人々の郊外居住ニーズにも応えることができるエリアを形成する。



○デジタル・ヘルスケア・モニター制度の試行

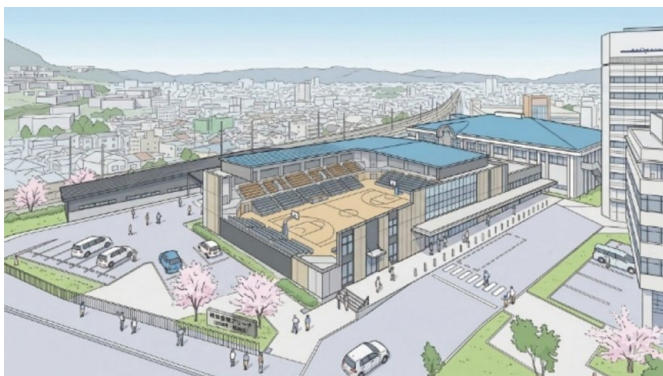
・ライフサイエンス拠点近隣の住民から希望者を募り、「デジタル・ヘルスケア・モニター」として日常的にウェアラブルデバイスからバイタルデータを提供するコミュニティを形成する。データ提供の対価として、「健康ポイント(地域デジタル通貨)」の付与や、先端医療機関と連携したプレミアムな健康診断・遠隔医療の優先受診機会を付与する官民連携の仕組みを試行する。

(2)「観る・知る・遊ぶ」なら「やっぱぎふやて！」

① まちなかに子ども・若者が感動・共感する空間を作る

○エリア毎の特性を踏まえて、若者がスポーツ観戦やイベントを楽しむアリーナや、若者が自らも発信者となりうる小規模ホールを設置する。

- ・名古屋圏や近隣市町村からのアクセスの良さを活かし、香蘭地区に小～中規模アリーナ(観覧収容3～5千名程度)を建設。
- ・まちなか(柳ヶ瀬など)に小規模アリーナ(同1～2千名程度)を低層階に、高層階には商業施設やオフィスビルを備えた複合施設「柳ヶ瀬アリーナ」を整備、アーバンスポーツ(3×3バスケットボールやボルダリング、パルクール等)の拠点等として、まちなかの賑わいのコアに。
- ・まちなかに空き店舗・空きビルを活用した小規模ホール等(同 数十名程度～)を設置、日常的に人が集まり交流するスポットに。



○埋もれているレトロ資産等から若者が感動・共感する(エモい、映える、推し活等)スポットを再発見しSNS等で情報発信、若者をまちなかに呼び込み交流を促進し消費拡大に繋げる。また、若者によるSNS発信の定番である食べ歩きスポットを整備する。



○まちなかがファミリー層のお出かけ先の選択肢になるように、ファミリー層が必要とする休憩場所、トイレ、子供向けの飲食店等を、まちなかの中心にある柳ヶ瀬から金公園周辺に整備する。

② 歴史回廊体験(別紙)の整備

○4つのエリア(金華エリア・川原町エリア・加納エリア・柳ヶ瀬エリア)で4つの歴史を追って重ねていく「歴史回廊」体験を、新たな岐阜観光の主要コンテンツとして作り上げ、点で存在する魅力を線・面で繋ぎ、滞在時間を延ばす。また、回廊内にあって価値がありながら埋もれている個々の観光資源(岐阜大仏、名和昆虫博物館等)の磨き上げとPR・情報発信を強化する。

③ 観光コンテンツの整備・強化

○歴史的建造物(古民家等)を観光拠点として整備する。鶺鴒観覧までの時間を伝統工芸や銘菓を愉しむ「プレ・ショー」の場として提供し、昼の観光と夜の鶺鴒を「ラグジュアリーな体験」で繋ぐことで、滞在満足度と消費単価を向上させる。

おもてなし 鶺鴒ラウンジ

歴史的建造物を活用した、特別なプレ・ショー体験。



歴史的建造物を活用
古民家等を開放した
特別な空間。



岐阜の伝統工芸や菓子
地域の文化とおもてなしで
お迎えます。



鶺鴒への期待が高まる
幽玄の世界へと誘う、
特別なひととき。

鶺鴒観覧の前から、特別な物語が始まる。



○喫茶モーニング、長良川クルーズ、リバーサイドヨガ、テントサウナ等の「朝の体験」をパッケージ化し、翌朝の過ごし方をセットで提案することで、自然な宿泊動機を創出する。



【朝】船×モーニング



Concept

岐阜の「モーニング文化」と早朝クルーズを接続。

Flow

乗船客をそのまま川原町のベーカリーやカフェへ誘い、「朝の経済圏」を確立します。

【夜】鶺鴒×おもてなしラウンジ



Problem

鶺鴒観覧船、乗船前の「空白の1.5時間」。

Solution

この時間を、おもてなしラウンジで伝統工芸や銘菓を楽しんでいただき、鶺鴒への期待感を最大化します。

○金華山ロープウェイ降車後、岐阜城までの険しい道のりを、着物やカツラ等の簡易な着付けやAR(拡張現実)ゴーグルによる武将ナビゲーション等で楽しく移動できるお籠体験「お籠でGo!」を導入し、インバウンドの満足度向上とSNS拡散を狙う。



○ファミリー層の獲得を目指し、かつて同地に存在した動物園を小規模で復活させる。既存の人気施設「リス村」を核に、動物とのふれあい・学び・休憩を組み合わせた「岐阜公園どうぶつふれあいガーデン」を開設し、夜間展示「ナイトZOO」も展開することで、昼夜問わず楽しめる観光ナイトスポットとする。

○日差しの強い日中を避け、夜の公園を散策するナイトピクニックを推奨する。ファミリー層やカップルをターゲットに、ライトアップした岐阜城・岐阜公園で「ナイトピクニック」を開催。地元の限定グルメや飲料などを詰め込んだ「ぎふ夜空バスケット」の販売やキッチンカー、浴衣レンタル・手持ち花火などに加え、ナイトシアター、プロジェクションマッピングも実施。特設ソファやピクニックシート席で、幻想的で特別感のある贅沢な夜の過ごし方を演出する。

(3)「学ぶ・育む」なら「やっぱぎふやて！」

① まちなかを学びの場として整備する(まちまるごとキャンパス)

○大学・専門学校などの教育機関(本体)をまちなかに誘致する。空きビル・店舗等を、講義、サークル活動、交流場所として活用し、「まちまるごとキャンパス」を形成して、まちなかに人流を取り戻す。



○まちなかで開催する講義は、一部、機関を越えた共通科目(岐阜を題材とした科目等)とし、機関間・学生間の交流を促進するとともに、地元の産業界と連携した課題解決型教育(PBL:Project/Problem-Based Learning)、海外の大学との連携授業にも取り組む。

○10代、20代の人材流出を防ぎ地元で活躍する人材を確保するため、地元での学びを保証する高大連携(市立教育機関のエスカレーター化等)や、就業支援(奨学金返済の支援等)を進める。

○旧南庁舎を、若者が暮らしビジネスと交わる「柳ヶ瀬ベース」へ再生する。サテライトキャンパス+寮+フリースペースを、地元企業・スタートアップ企業と学生の交流・定住の場(住み、創り、試す自走する拠点)とする。

岐阜市南庁舎の活用

まちなかがキャンパス、まちなかがリビングへ

学生も、若者も、社会人も、ここから、まちの未来をつくる。

南庁舎の活用

サテライトキャンパス+学生寮+フリースペース。

学生ターゲットの価格帯

500円~700円で利用できる食事やスペースの確保。

住む
(Live)

遊ぶ
(Play)

働く
(Work)

起業する
(Start Business)

学生も、若者も、社会人も集い、交流することで、まちに新しい価値とつながりが生まれる。

まちなかがキャンパス、まちなかがリビングとなり、岐阜の未来を共に育てていく拠点へ。

旧南庁舎再生案

若者が「住み、創り、試す」自走する拠点へ

yanagase BASEで生まれる、まちとつながる新しい日常。



生まれる相乗効果

- 01 暮らしがにぎわう
- 02 挑戦が事業に
- 03 地域とつながる
- 04 回遊を生む
- 05 自走する拠点へ

つなぐ、学ぶ、つくる。
ここから、まちの未来をつくる。

学生・若者・社会人が集い、交流と価値を生む。
まちなかがキャンパスとなり、岐阜の未来を育てる拠点へ。



② 子どもや若者が岐阜の仕事を学ぶ、段階的な仕組みの整備

岐阜の産業に対する次世代の愛着と誇りを育むため、子どもから若者までが段階的に学べる「一貫した職業体験の仕組み」をまちなかに構築する。

○第一段階(知る・触れる)

- ・子どもや若者を中心に多くの世代が学び楽しみ、岐阜の産業の歴史を知り体感できる「産業学習館」を、空き店舗や空きビルも活用してまちなかに設置する。



○第二段階(遊びながら体験する)

- ・同施設内において、伝統産業(提灯、和傘など)の事業者の協力を得て、子どもを対象に「やってみ店長サン(仮称)」「おしえ店長サン(※)」の体験特化版を常設し、地域の産業に触れ、体験する機会を創り出し、まちと仕事への理解・愛着を深める。

(※)当所が実施するプロ直伝の技や知識を学べる体験型ゼミ事業。
店主やスタッフが講師となり、参加者が気軽に学べる場を提供している。



○第三段階(実践とキャリア形成)

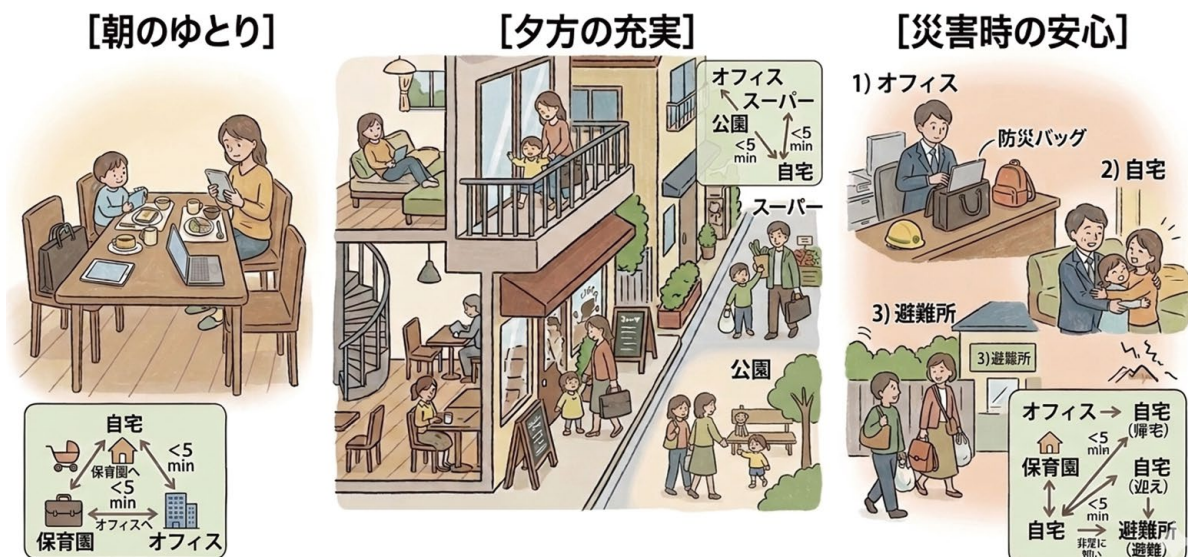
- ・施設での体験を通じて興味を持った若者を対象に、当所の既存事業である「おしえ店長サン」を拡充し、高校や大学の単位として認定することで、次世代の産業の担い手の裾野を広げる。

(4)「住む」なら「やっぱぎふやて!」

① まちなか居住の推進

○職住に必要な都市機能が近接したまちなかの利便性を活かし、可処分時間を増やす(=生活の「タイプ」を上げる)方法として、店舗の2階や周辺で暮らす職住近接を推奨。まちなかで個人事業(創業後3年以内)を営む事業者には家賃を補助する。

○小中高生が自習できる公共施設の拡充や、安心安全に放課後を過ごすことができる「サードプレイス」の創設など、子どもの学習・生活環境を整え、まちなか居住の子育て環境を整える。



② 多様なライフスタイルの実現支援

○ワークダイバーシティとテレワークの支援のため、タブレット端末の貸与等によりテレワーク・ショートタイムワークの環境を提供する。

○多世代同居と生活基盤作りへの支援として、郊外居住、三世帯同居・近居に対する住宅取得補助や自動車購入補助等を行い、多様なライフスタイルの選択肢を広げる。



③ 災害に強い岐阜の強化・PR

- 「防災×DX」により、安全の見える化(避難所受付、備蓄管理のシステム化、防災ハンドブックの電子化等)を進める。
- 防災ステーションを県内企業の「防災テック(ドローン、浄水器等)」の展示・実証実験場として活用、防災拠点が日々の暮らしに溶け込むよう、防災ステーションでのマルシェ開催や、備蓄倉庫のアンテナショップやシェアキッチンとしての活用などを行う。
- 法定の避難訓練義務がない小規模事業者向け防災ワークショップ(VRを活用した災害疑似体験、防災まち歩き等)を開催する。

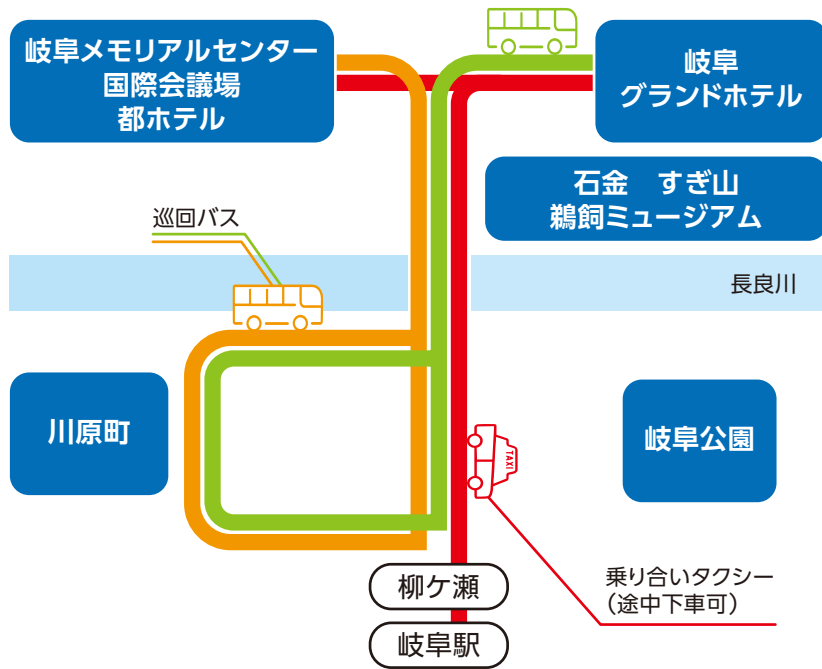


(5)「行く・来る」なら「やっぱぎふやて!」

① 市内観光の利便性向上

- JR・名鉄岐阜駅周辺を起点とする乗り合いタクシーを新設する。長良川河畔ホテル方面に向けて定額かつ、あらかじめ設定したポイントで途中下車が可能なものとする。
- 観光客の自在な移動手段の確保、ナイトタイムエコノミーの活性化等のため、岐阜公園～河畔ホテル周辺を巡回するバス路線(夜間まで運行)を2通り新設する。岐阜公園から川原町、岐阜グランドホテル、鶉飼ミュージアム、すぎ山、石金を回るルートと岐阜公園から川原町、国際会議場、都ホテル、岐阜メモリアルセンターを回るルートを試行する。
- これらの交通機関の運行コスト補填に宿泊税を活用するとともに、将来を見据えた自動運転の導入を図る。

巡回バスルート+乗り合いタクシー イメージ図



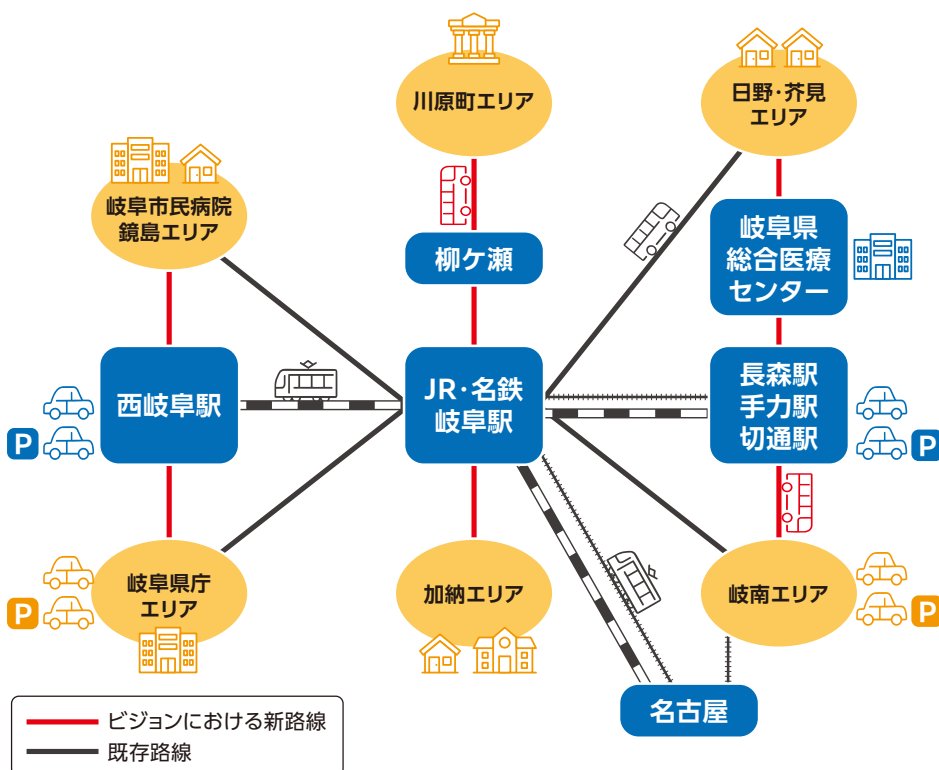
② 公共交通の利便性・持続性向上

○名鉄・JR向けに集中して運行している既存のバス路線の一部を減便し、東西の主要駅(西岐阜駅・長森駅)向けの路線に振り替える、交通の分散による渋滞の軽減、乗務時間の短縮による運転手逼迫の緩和を図る。

③ 楽しみながら便利・安全に移動できる移動手段の確保

○名鉄岐阜駅から柳ヶ瀬方面にトランジットモールを整備し、まちなかに向かう人が楽しみながら移動できるウォークアブルな動線を確認する。

○電動スケートボード等のマイクロモビリティ、EVトゥクトゥクやベロタクシーのようなライトモビリティを充実させ、まちなかの自由な回遊手段を確認する。



5 | おわりに

本ビジョンは、岐阜のまちで働き、暮らしてゆく当所の若手職員が中心となり、地域の未来を想う皆様や当所議員と真摯に意見を交わしながら策定したものである。

岐阜商工会議所の使命は、地域経済の発展と会員企業の繁栄に貢献することにある。

ビジョンのサブタイトル「やっばぎふやて!と言える未来へ」には、歴史的資産を次世代の感性で磨き上げ、子どもから若者、子育て世代、そして、すべての人がこのまちに誇りと愛着(シビックプライド)を持てる未来を創りたい、という強い願いが込められている。

今後はこのビジョンで検討した施策について、当所の役員・議員で構成する各委員会にて検討を加え、政策要望や提言活動に活かしていきたい。同時に、まちのにぎわいを創出するためのイベントの企画や気運醸成、さらには多角的な情報発信を継続的かつ主体的に展開していく。

このビジョンの実現は、当所だけの力で成し遂げられるものではない。一方、すでに行政、商店街、民間事業者等、多くの関係者がそれぞれの立場で岐阜の未来を考え、様々な取り組みを進めている。

私たちは、互いへの理解を深め、強固なネットワークを築き、ともに実行に移していく必要がある。そのためには、岐阜の発展を願うすべての関係者が、岐阜の持つ計り知れないポテンシャルを信じ、「志」を一つにして力を結集することが不可欠である。

関係者とさらに議論を深め、共に汗を流し、誰もが自信と愛着を持って「やっばぎふやて!」と言える未来を創り上げていきたいと考える。

別紙 | 4つの歴史を追体験する「歴史回廊」



★金華エリア(戦国時代)

- 斎藤道三公、織田信長公によって築かれた岐阜市発祥の地。ほぼ当時のまま残されている町なみを歩き、ルイス・フロイス師が見た戦国の岐阜城下町の活気と歴史を体感する。
- ・VR、AR等による「戦国城下町」の再現で、歴史資源をデジタル体験する。
- ・歴史的景観の「修景」と歩行者天国の定期開催。
- ・岐阜城楽市との連携 (オリジナル貨幣を使ったこども商人塾等)

1 歴史資源のデジタル体験

XR(拡張現実)で、戦国城下町を体感。

スマホをかざすと見えない歴史が目の前に。

当時の賑わいや建物がARでよみがえる。

デジタル散策ガイドで歴史を楽しく学べる。

歩くほどに、戦国の息吹がよみがえる。

2 歴史的景観の「修景」と歩行者天国の定期開催

歩きたくなるまちへ、美しく、心地よく。

整備前 (イメージ) 整備後 (イメージ) 歩行者天国の様子 (イメージ)

- 電柱地中化
景観をすっきりと美しく。
- 石畳風舗装
歴史を感じる上質なまちなみへ。
- 歩行者天国
週末の特定時間にゆったり散策。

歴史と未来が調和する、歩きたくなるまちへ。

歴史がつなぐ、岐阜の誇り。

★川原町エリア(戦国～江戸時代)

○岐阜が誇る清流長良川とともに歩んできた商人文化のまち「川原町」で、日常と切り離された上質な時間と空間を楽しむ。

- 歴史的建造物を活用した、おもてなし鵜飼ラウンジを誕生させる。
- 川湊の空間で、長良川の清流とさわやかな風を感じながら食事や読書ができるテラス空間を整備する。
- 鵜飼オフシーズンも通年で楽しめる、工芸体験やトークイベントを定期的を開催する。

歴史が息づく、川湊の商人町





歴史的建造物
当時の面影を残す町家が並ぶ、歴史ある景観。



商人の町として発展
物流と文化が集まる交易の要所として、町が栄えた。



今も受け継がれる遺産
町の随所に歴史とエネルギーが宿る、今なお息づく文化。

★加納エリア(江戸時代)

○中山道の宿場町への歴史探訪。岐阜和傘・岐阜提灯の聖地としてPRし、伝統工芸や職人技法を目で見て楽しみ、さらに体験し肌で感じ楽しむ。

加納エリア

江戸時代

加納宿

～中山道 美濃17宿～

中山道の宿場町として栄えた美濃17宿のひとつ。



和傘



提灯



- 岐阜和傘や岐阜提灯づくりに携わる会社や職人の工房は、現状一般公開されていない。これら職人の手仕事を間近に見学・体験しその価値を知るとともに、その場でオーダーメイド注文できる「特別プログラム」を提供する。
- 提灯や傘を共通のモチーフ・デザインとしたサイン装飾で、エリアの歴史的一体感を伝えるプロムナードを形成する。

1 工房見学・体験





見学する



体験する



オーダーメイド

職人の技を間近で体感。
世界に一つの和傘や提灯を。

2 軒先デザインプロムナード





提灯の軒先



和傘のしつらえ



統一デザイン

歴史と風情をつなぐ、
まち全体の統一感。

★柳ヶ瀬エリア(昭和時代)

- 昭和期に全国屈指のにぎわいを誇った柳ヶ瀬商店街。東西南北に広がる広大なアーケードの下で、「新」と「古」の化学反応から生まれるエネルギーを楽しむ。
- 空き店舗やアーケード街を活用したイベント
 - 雑居ビルのスナックや赤ちょうちん居酒屋などに気軽に入れるデジタルクーポンの配布や、外国人向け通訳付きハシゴ酒ツアー

レトロが新しい、
まちのにぎわいを再発見。





イベント グルメ 交流



アーケードで楽しむ
イベント

空き店舗やアーケードを
活用した多彩なイベント。





レトロな路地の
名店めぐり

一步裏に入れば、
昭和の香りが漂う名店が。



1 アーケードを活用したイベント






 まち全体が舞台に。
人が集まり、つながるきっかけに。

2 気軽に入れるお店体験をサポート

デジタルクーポン



お得に
気軽に！
使う

はじめの一步を
後押し！

ハシゴ酒ツアー



通訳付きで安心。
地元の魅力を案内！

レトロな名店を発見



入りにくいお店も、
もっと身近に。



スナック



居酒屋



バー

昭和の空気を感じながら、あたらしい出会いを。

柳ヶ瀬で、特別な時間を。






★4つのエリアを繋ぐシンボルの整備

○エリアを巡る人を、次のエリアへと誘う道しるべ。

- 写真を撮りながら歩を進めていくうちに、エリアを自然と回遊できるような造形物をまちなかに設置。夜間はライトアップし、昼夜で表情に変化を持たせ、その両方を写真に撮りたくなるような仕掛けも取り入れる。

「道しるべスタチュー」



「歴史回廊モニュメント」

